

読賣新聞

10月28・29日

「金剛不壊」乳がんと闘う

乳がん患者らの集会「生命の祈り」乳がんの集いin高野山」は2日目の28日、高野町の高野山大学で、心のケアに関する講演会が開かれたほか、NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を手掛けたタウン症の書家、金沢翔子さん(27)が、患者を励ますため大作の揮毫に挑んだ。

医療法人南労会(橋本市)と高野山真言宗・総本山金剛峯寺(高野町)の主催で、読売新聞和歌山支局などが後援。患者や家族

書家・金沢さん揮毫

ら約210人が参加し、亡くなった患者の供養式典を営んだ。

講演会では、NPO法人H O P Eプロジェクトの桜井なおみ理事長が海外の患者会の活動などを紹介。患者会「あけぼの会」のワット隆子会長は、患者への支援活動について「体調が優れない時は無理せず、身の丈に合った活動をしてほしい」などと助言した。

同宗別格本山観音寺の密門光範住職は、「いつも死

について考えてこそ、命の値打ちが分かり、命は光り輝く」と強調した。

金沢さんは、患者からの要望を受けて、母で書家の金沢泰子さん(68)と共に参加。長さ約60センチの筆を使い、強いものは壊れないという意味の「金剛不壊」を縦1・9メートル、横1メートルの和紙4枚に1文字ずつ、豪快な筆遣いで書き上げ、大きな拍手を浴びていた。

大阪市の患者会「がん患者サポーターの会きんなん」

集会2日目 高野山で心のケア学ぶ

代表、辻恵美子さん(69)は「力強い書が魂に響き、勇気をもたらしました」と笑顔を見せていた。



力強い筆遣いで揮毫する金沢翔子さん(高野町の高野山大学で)

乳がん患者 心つないで

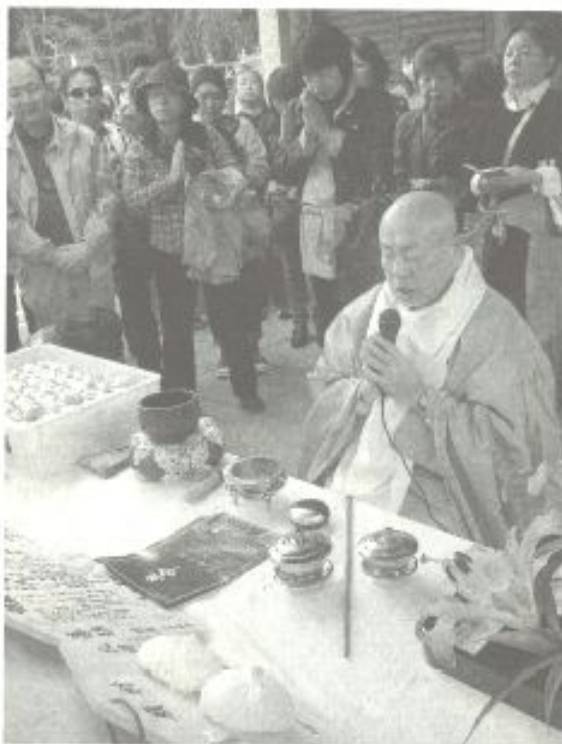
慈尊院で集会 治癒祈り絵馬奉納

乳がん患者の心のケアを目的にした集会「生命の祈り」乳がんの集いin高野山」が27日、「おっぱい寺」と呼ばれる九度山町の慈尊院で始まった。全国から患者や家族ら約210人が集まり、乳がんの治癒を祈って絵馬を奉納した。

医療法人南労会(橋本市)

と高野山真言宗・総本山金剛峯寺(高野町)でつくる実行委員会の主催。読売新聞和歌山支局などが後援している。

慈尊院は弘法大師・空海の母が住んだとされ、古くから女性が妊娠や安産を祈って絵馬を奉納してきた。この日、患者らは「すべての



安念住職の周りで両手を合わせる参加者ら(九度山町の慈尊院で)

仲間が笑顔でいられますように」などと書かれ、乳房形の飾りを施した手作りの絵馬を奉納。祈とうする安念

清邦住職(68)の周りで手を合わせた。愛知県岡崎市の吉村恭子さん(57)は「仲間

の冥福を祈りました」と話し、和歌山市の田中文子さん(53)は「自分の病気が再発せず、再発した人が元気に長生きできるように願いを込めました」と語っていた。

28日は高野山で、亡くなった患者の供養式典や、患者会「あけぼの会」のワット隆子会長らの講演会などが開かれる。

結納品各種贈答品卸・製造直売

和歌山市豊形町の三三木町交差点北の〇川路入

西川

422-0905-2873